

四万十の風音

森 & 川 だより



西土佐中学生の職場体験

4月20日～4月22日の3日間にかけて、西土佐中学校の職場体験学習で、三年生の生徒が1名やってきました。

西土佐中学校では、例年「職場体験学習」を実施しており、今回で18年目になるとのことです。

職場で実際に働くことで、職場の人々の仕事に打ち込む姿や仕事に対するこだわりや考え方を知ると共に、働くことの喜び、苦労や厳しさを体験し、働くことの意義を学ぶことが目的です。1日目は、黒尊山国有林において、植栽した苗木をシカの食害から守るためにかぶせていたヘキサチューブが、植栽後10年ほど経過し、広葉樹の成長を圧迫し始めたものは取り外し、ラス巻き（木の幹に網を巻くこと。）に切り替える作業を行いました。2日目には、黒尊山国有林内の親水公園において、シカ食害防止のために、ネットで囲った中に2年前に苗木を植えましたが、枯れたりして減ったので、ケヤキ・ヤマザクラ・イロハモミジの広葉樹ポット苗を補植してもらいました。その後、事務所でヒノキの板・角材で、木工教室用の椅子を試作しました。3日目には、滑床溪谷の滑床山開きの会場で、松野南小学校の小学生に対する木工教室の手伝いをしてもらいました。その後、滑床山国有林に移動して、シカを捕獲するための囲いワナの組み立て設置作業を実施しました。わずか3日間という短い期間でしたが、それぞれの仕事を行うことの意味、方法を理解して体験をしてもらいました。これらの体験を通じて、両親等の仕事の大変さや苦労を知ることができ、進路についても考える有意義な機会となったと考えます。



黒尊山でラス巻き作業の様子



黒尊山で補植作業の様子



木工教室用のイスを試作



滑床山で囲いワナの組立作業

滑床山開きで木工教室を開催

4月22日、足摺宇和海国立公園内にある滑床溪谷で、松野町等が主催する恒例の滑床山開きの神事が行われました。

この山開きには、地元の松野南小学校の全校児童6名が目黒緑の少年隊として出席しており、毎年、神事の後に森林教室や木工教室を行っています。

今年は木工教室ということで、5月の端午の節句も近いことから、「よろいかぶと鎧兜武者と金太郎」をヒノキの板・角材を利用して製作しました。あらかじめ「むしや鎧兜武者と金太郎」の各パーツを当センターで準備し、児童が、各パーツをポスターカラーで思い思いの色で着色し、ボンドで角材の台座へ張り付けるという簡単なものとし、学年で差が出ないように工夫しました。

今回の木工クラフト製作を通じ、木の持つ温もりや、素材としての木材の良さを身近に感じてもらえたと思います。





万年荘前でクラフト製作



よろいかぶとむしや
「鎧兜武者と金太郎」製作中

四万十高校自然環境学習

四万十高校の自然環境コースの一年生6名は、四万十川流域を中心に自然環境に関する学習、屋久島での自然環境学習等を行っています。その予行演習も兼ねて、高知県と愛媛県の境にある八面山^{はちめんざん}及び三本杭^{さんぽんぐい}登山を行って、その中で、「シカ食害とその回復に向けての取り組み」、「ブナ天然林の価値について」、「四国の温帯の代表的な樹木の同定」についての講義をしてをしてもらいたいとの要請があり、5月19日、八面山^{はちめんざん}を経由して三本杭^{さんぽんぐい}に登りました。

当日は晴天に恵まれたこともあり、登山道にはシャクナゲやオンツツジなどの花見目当てと思われる登山者も大勢おりました。登山の道中では、シカが高密度になってしまうと、シカの食べない植物



森林教室の様子



さんぽんぐい
三本杭山頂にて

やアセビ等が繁茂し、皮剥による樹木の枯死や若木の減少によって植物の種類が単純化し、下層植生が食べ尽くされて土壌が乾燥して生物の多様性も低下、ひいては景観や生態系の崩壊にもつながることを説明しました。八面山^{はちめんざん}のブナ天然林では、ブナは速やかな腐ることによって豊富な土壌の養分が雨水を通して山から川、海へと流れ、海の幸を育む働きがある

こと、そして、洪水を防ぐ緑のダムなどの森林の大切な働きがあるので価値があるということを説明しました。

また、登山道沿いの樹木の幹や枝葉に触れさせ、樹皮や葉の匂いを嗅がせるなどの体感を通して樹木の名前や特徴を説明しました。シカによるリョウブ等の樹木の剥皮被害や森林総合研究所四国支所と当センターの共同でのシカ試験地では、シカ食害防止ネットをしている所としていない所の違いについて、生徒に質問をして、シカ食害についての理解を深めました。三本杭山頂^{さんぽんぐい}では、当センターが設置したシカ食害防止ネットや、ボランティア等によるミヤコザサの移植などによって植生の回復が見られていること等を説明すると、全員メモを取り、質問をするなどして、積極的に学習に取り組みました。

下山後、生徒代表から、「今回の登山を通じ、樹木についての学習が出来ました。いろいろな樹木の種類がここにあることがわかりました。シカの食害による植生回復の取り組み等についても深く知ることができ有意義な体験でした。本日はどうもありがとうございました。」と感想があり、当センターとしても、今回の体験を通して、生徒の自然環境、森林等への理解がさらに深まったものと考えます。

近永小学校で親子木工教室を開催

5月28日(土曜日)、鬼北町立近永小学校で、一年生22名と父兄等の計46名を対象に親子木工教室を開催しました。



クラフト製作の様子

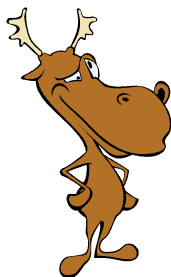


「みきゃん」完成したよ

事前の打ち合わせに沿って、一年生の児童と兄弟達には、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」の置物を製作してもらうこととし、スギの板のパーツを事前に準備し、見本を参考に、各自が自由に、ポスターカラーで色付けをして、ボンドでヒノキの台座へ貼り付けて完成させました。また、親御さん達の方も、児童と一緒に製作する合間に、サクラ、ミズメ、ヒメシャラなどの木の小枝を使ったキットを利用してフクロウのストラップやカニのキーホルダー

を製作しました。

短い間でしたが、児童と親御さんが一緒に、木材や小枝を使って工作ができたことで、これからも親子で、木材に親しみ、利用してもらいたいと思います。



ニホンジカ捕獲に向けて 小型囲いワナを追加設置

当センターでは、高知県四万十市の黒尊山国有林周辺、愛媛県滑床山国有林周辺において、ニホンジカ被害地の森林再生、植生回復事業に取り組んでおり、更なる対策を推進して行くため、平成23年度から高知県四万十市の黒尊山国有林で、平成24年度からは滑床山および黒尊山に接する愛媛県目黒山国有林で、地元の猟友会に委託を行い「シカの囲いワナ」を設置してニホンジカの捕獲を実施してきたところです。

今年度は、当地域のニホンジカの森林への被害を食い止め、捕獲頭数の向上を図るため、今までより少し大きめのタイプの小型囲いワナを追加設置することとし、新たに滑床山国有林周辺に3基、黒尊山国有林周辺に5基を追加設置しました。

今回、小型の囲いワナを追加して設置したことで、ネット式の大型の囲いワナ（周囲をシカ防護ネットで囲ったもので、黒尊山に1基、目黒山に1基）と中型囲いワナ（黒尊山に3基、6m×10m×2m）、小型囲いワナが黒尊山が7基、目黒山に4基、滑床山に3基となり、ニホンジカの捕獲頭数が更に増え、森林への被害が少しでも減少することを期待しています。



小型囲いワナ設置状況（黒尊山）

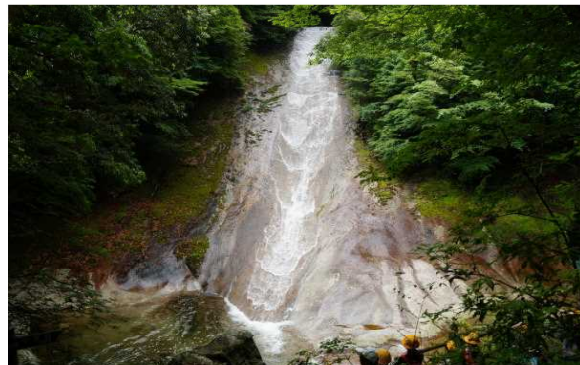


小型囲いワナ設置状況（黒尊山）



滑床溪谷で森林教室

梅雨に入ったばかりの6月6日、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童29名を対象に、足摺宇和海国立公園内の滑床溪谷を散策しながら、森林教室を実施しました。行きは万年橋から雪輪の滝まで、遊歩道沿いの樹木を学習しながら滑床の自然の美しさ雄大さに触れました。



雪輪の滝



滑床溪谷を散策

帰りは溪谷の左岸の滑床林道を歩き、林道沿いのスギの木（スギは午後から作る木工クラフトの材料であることを説明して）の高さを測定できる器械を使って測樹体験をしました。万年荘前で、帰りの林道端で採った葉っぱを使って、ネイチャーゲームの「葉っぱジャンケン」を行いました。「葉っぱは誰でも手軽に触れることのできる自然で、よく見ていくと同じ種類でも少しずつ

違っていたり、中には虫に食われた痕があったりします。身近な自然を大切にしてください。」と説明しました。

午後からは、パネルを使って「森林のはたらき」について学習しました。その後、キャンプ場に移動し、ネイチャーゲームの「カモフラージュ」では、「生き物たちの中には、周囲の木の葉や幹と同じ色をして、敵から身を守っているものがあります。テープに沿って置いていくいくつかの人工物を探してみてください。」と説明し開始しました。するとなかなか見つけることが出来ない児童もいましたが、時間差こそあれ全員が発見することができました。この体験を通して、「カモフラージュ」の意味を理解してもらいました。そして、万年荘前広場において、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」をスギの板のパーツにポスターカラーで色付けし、ボンドでヒノキの台座へ貼り付けて完成させました。

最後に、児童より、「いろいろなゲームや体験が出来て、山のことや木のこととがわかって良かったです。どうもありがとうございました。」と感想があり、学校からは、「普段の学校ではできない活動を通じて、滑床の自然の美しさや森林の大切さを知った一日となりました。」と挨拶がありました。当センターとしても、今回の体験が児童の樹木や自然環境、森林等への興味や理解につながったものと考えます。



測樹体験の様子



カモフラージュの様子



万年荘前で森林教室



全員でハイチーズ

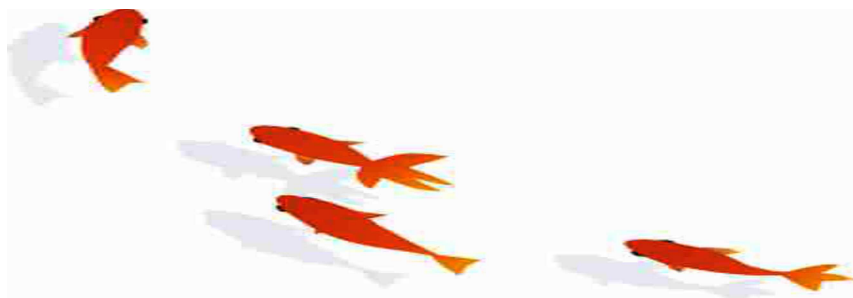
滑床山熊のコル周辺のシカ防護ネット柵のメンテナンス

これまでに、自然再生地に設置したシカ防護ネット柵の総延長が延びるに連れ、風雨によるネットへの倒木等やニホンジカがネット内に侵入したり、ネットに掛って壊す場合が増加したことから、定期的な点検・補修（メンテナンス）作業が欠かせません。

6月9日にも、滑床山熊のコル周辺で、ニホンジカがネットに掛ってネットを壊したことから、メンテナンス作業を実施しました。



熊のコルでネットに掛ったシカ



小筑紫小学校で年間を通した森林環境教育

宿毛市立小筑紫小学校の五年生は、平成25年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度4～5回継続して森林環境教育を実施しています。

今年度も学校からの支援要請を受けて年間4回実施する予定です。この第1回目として、5月24日に児童10名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と樹木名板を製作しました。最初に「森林の大切な働き」について説明しました。この学習では、森林には洪水や土砂崩れを防ぐ等の防災のはたらきや快適な環境を作るはたらき等があり、海と山は川によって密接につながっていて、山が手入れをして良くなれば、川も海も豊かになります。皆さんも身近な自然を大切にしてくださいと説明しました。

この後、校庭に出て、樹木の幹や枝葉に触れさせ、木の肌の感触や葉や花の匂いを嗅がせるなどの体感を通して30種の樹木についての名前や特徴が理解出来るよう説明しました。その後、ヒノキの板に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて、個性の溢れた樹木名板が完成しました。

終わりに児童から「森林の役割や大切さがわかりました。緑ってとても大切なものだと思えました。私の知らないことばかりで、ものすごく勉強になりました。」と感想がありました。



樹木名板製作の様子



樹木名板完成したよ

また、6月14日には、本年度2回目の森林環境教育として、卓上糸のご盤を使った木工クラフト学習を行いました。

まず、木工クラフトを始める前に、材料となる「木材の特徴」について説明しました。木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）があり、木材を上手に使う工夫をして、色々な物や場所に木材を使っていることについて説明を行いました。その後、児童達は卓上糸のご盤を使って、スギ板に描いた絵に沿って真剣に切り抜き作業に取り組み、色塗りやボンドで接着して、約二時間の間夢中になって作品製作に取り組み木工クラフトを完成させました。

後日、小学校から送られてきた児童の感想文には、「卓上糸のご盤を使った工作は、初めてだったので、板をまわしながら切るところが難しかったけど、楽しかったです。」「いろいろな木があることを知ったので、他にも堅い木や柔らかい木があるかも知れないと思ったので調べてみようと思います。」等の感想文が寄せられました。

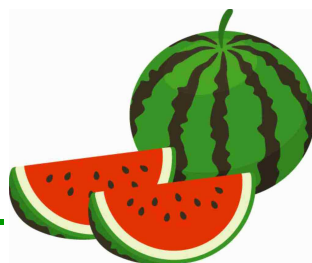
当センターとしても、今回の体験で児童の木や木材へ興味や理解につながったものと考えます。そして、2月期からは、「空飛ぶ種子」や「水の土壌浸透実験」も引き続き実施する予定です。これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解を深めてもらいたいと思います。



卓上糸のご盤作業の様子



木の重さの比較実験の様子



林野庁 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031



